

岡山県津山市 「地域産業の付加価値創造～イノベーションの促進と生産性向上～」

- 津山市では、中国自動車道の開通を契機に造成した工業団地への企業立地により金属加工業及び機械器具製造業、豊富な森林資源を背景にした木材又は木製品製造業、高い縫製技術による繊維工業、地域の素材を活かした食料品製造業等や、建設業並びに卸売業及び小売業等を中心とした地場産業も地域経済を発展に導いてきた。
- 一方、経済社会情勢の大きな変化により、近年は人材確保が大きな課題にあがるなど、市内企業を取り巻く環境はより厳しさを増している。
- こうした中、津山市では平成26年2月に独自の成長戦略を策定し、平成27年4月に「つやま産業支援センター」を立ち上げた。同センターのこれまでの活動で見えてきた課題と成果の検証、今後の地域産業の付加価値創造のため、津山市の産業振興の方向性について、商工団体、教育機関、金融機関を交えたワークショップを実施。

実施概要

日時：平成30年10月16日（火）

会場：津山市役所 2階 大会議室

参加者：26名（市職員、教育機関、商工団体、金融機関等）

有識者：東京大学 教授 松原 宏 氏

使用したRESASのデータ：

人口マップ、地域経済循環マップ、産業構造マップ

その他利用したデータ：

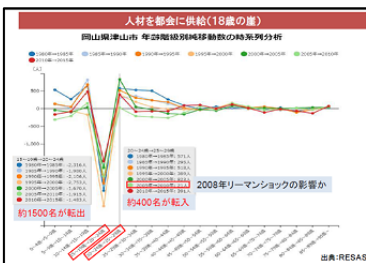
岡山県「平成27年度岡山県市町村民経済計算」

総務省「住民基本台帳人口移動報告」

ハローワーク津山からの提供資料

現状分析：人口動態、求人、所得及び産業における現状と課題

- 総人口の減少は元より、生産年齢人口、年少人口の減少が大きな課題。
- 求職者減、求人増により求人倍率、給与額とも上昇傾向。（特に製造業の求人が増加）
- 県南と県北各市では所得、労働生産性に格差がある。
- 津山市は、移輸入が移輸出を超過している状態。
- 域外から外貨を獲得しているのは主に製造業で、機械器具製造業、金属製品製造業、木材・木製品製造業の域外販売額が特に大きい。
- 津山市産業の付加価値額は低いが、第2次産業の所得は全国平均に近い。
- 製造業の労働生産性、黒字企業比率は全国平均以上。



今後20年で生産年齢人口が約1万人、年少人口も約3千人の減少が見込まれている。年齢階級別純移動数の時系列分析では、大学卒業の年代で400人増加しているが、大学進学年代で1,500人減少している。

すべての中分類	岡山県内順位	全国順位
食品製造業	6位 / 25位中	266位 / 1666位中
電気機械器具製造業	1位 / 15位中	31位 / 1275位中
電気・電子回路製造業	2位 / 7位中	32位 / 679位中
金属製品製造業	3位 / 20位中	33位 / 457位中
はん用機械器具製造業	3位 / 10位中	94位 / 1021位中
非鉄金属製造業	3位 / 7位中	207位 / 582位中
木材・木製品製造業(家具を除く)	4位 / 10位中	64位 / 314位中
		100位 / 592位中

出典:RESASデータをもとに作成

製造業の労働生産性において、すべての中分類では岡山県内6位、全国でも266位と高い水準。誘致企業が労働生産性向上に寄与している一方、木材・木製品製造業は地場企業が高い生産性を有している。

施策提案：製造業を中心とした地域産業の付加価値創造

- 地域のリーディング産業の活性化 ⇒ 産業の集積化（機械器具製造業、金属製品製造業 等）
- 地域企業の高付加価値化 ⇒ 個別企業支援によるイノベーションの創出、生産性の向上
- 創業、新事業の促進 ⇒ U・I・Jターン創業促進、サテライトオフィス誘致
- 産業基盤となる人財の育成 ⇒ 人財の高度化、定着
- 上記を実現する組織、連携体、仕組みの構築 ⇒ つやま産業支援センターの設置、運営



市職員の分析発表の様子



ディスカッションの様子